

国立大学法人金沢大学長の業務執行状況に係る中間評価報告書

令和7年3月
金沢大学学長選考・監察会議
議長 河田 悌一

国立大学法人金沢大学学長選考・監察会議では、和田隆志学長が就任3年目を迎えたことから、学長就任後2年間の業務執行状況について総合的な評価（中間評価）を行った。

1. 評価対象期間

令和4年4月1日～令和6年3月31日

2. 評価の実施方法

学長の業務執行状況に係る中間評価は、学長によるプレゼンテーションと、学長と各委員との質疑応答による対話を経て、総合的に審議を行い、合議により評価を決定した。

評価は「金沢大学長中間評価実施要項」に基づき、学長選考・監察会議が策定した「求められる学長像」及び学長就任時の所信表明に掲げた内容を踏まえ、教育、研究、地域連携、国際交流、大学運営の各項目の取組み及びその達成状況について、学長によるプレゼンテーション及び学長選考・監察会議委員との質疑応答により業績の評価を行った。

3. 評価の結果

【総 評】

学長による2年の業務執行状況報告及びそれを踏まえた委員との質疑応答等を踏まえ、学長のリーダーシップの発揮状況や、第4期中期目標期間におけるこれまでの取組・進捗状況等を総合的に評価した結果、当会議は、学長の業務執行は順調かつ着実になされていることを確認した。

特に、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）を始めとする大型の外部資金獲得や、未来知実証センターの設立、大学が100%出資したベンチャーキャピタルの設立等、大学の目指すべき方向性を明確にしつつ世界的研究拠点の形成に向けた取組みが着実に進み、学長着任後2年という期間でその実現に向けた土台を形成したことは特筆すべき成果であり大いに評価したい。

中期計画及び未来ビジョン「志」等に掲げられている全ての項目を着実に遂行し、特に非常に大きな目標の実現に向けて意欲的に取組み、教職員とのきめ細かなコミュニケーションをはかりつつ強力なリーダーシップを発揮して推進している点も高く評価される。

学長選考・監察会議委員の総意として「総評」及び「個別評価」は、高い評価となったが、学長自身も認識していたように残りの任期中、残された課題や今後取り組むべき課題もある。

急速に進む少子化や財政状況等国立大学法人を取り巻く環境は厳しいものがあるが、今後の更なる期待も込めて本会議としては、学長には大学改革の実現・更なる発展に向け、資質・実行力があると確信し、今後もなお一層の戦略的な取組を進めるよう大いに期待し総評とする。